

(社) 日本原子力学会 標準委員会 リスク専門部会
第 19 回 外的事象 PRA 分科会 議事録

日 時： 2020 年 10 月 30 日(金) 13:30~16:30

場 所： Webex 会議

配布資料

RK6SC 20-1	第 19 回外的事象 PRA 分科会議事録(案)
RK6SC 20-2-1	人事について
RK6SC 20-2-2	外的事象 PRA 委員名簿
RK6SC 20-3-1	断層変位 PRA 標準:202X 公衆審査版からの変更点について
RK6SC 20-3-2	断層変位 PRA 標準:202X 新旧対比表
RK6SC 20-4-1	地震 PRA 標準改定案 リスク専門部会等コメントについて
RK6SC 20-4-2	AESJ SPRA2015 JCNRM コメントについて
RK6SC 20-4-3	地震 PRA 標準 2015 改定にかかる今後の作業
RK6SC 20-4-4	地震 PRA 作業会 検討スケジュール

議題：

1. 定足数確認, 資料確認
2. 前回議事録の確認
3. 人事関連
4. 断層変位 PRA 標準公衆審査版の誤記修正について
5. 地震 PRA 改定に対するリスク専門部会等コメント、英訳版に対する JCNRM コメントについて
6. 次回日程、その他

(出席予定)

出席委員(14名)： 糸井主査(東大)、桐本幹事(電中研)、安達委員(テプシス)、織田委員(日立 GE)、栗田委員(東電設計)、小林委員(中部電)、佐々木委員(関電)、西田委員(JAEA)、橋本委員(電中研)、泥谷委員(NEL)、美原委員(鹿島)、山野委員(JAEA)、吉田委員(大林組)、綿引委員(東電 HD)

欠席委員(5名)： 井上委員(東芝 ES)、内山委員(大成建設)、砂川委員(北海道電)、田中委員(MHI)、中島委員(電中研)

出席常時参加者(4名)： 倉本(NEL)、細川(関電)、成宮(JANSI)、根岸(原電エンジニアリング)

欠席常時参加者(1名)： 高橋(鹿島)

説明者(1名)： 酒井(電中研:断層変位 PRA 作業会)

議事内容

(1) 定足数の確認

会議に先立ち、委員 19 名中 14 名が出席しており、定足数を満たしていることが確認された。また、資料確認が行われた。

(2) 前回議事録の確認

桐本幹事から、前回議事録の内容について説明がなされた。

(3) 人事について

人事及び、最新の委員名簿の報告が行われ了承された。

(4) 断層変位 PRA 標準のリスク専門部会/標準委員会説明資料について

断層変位 PRA 作業会の酒井幹事より、断層変位 PRA 標準が標準委員会で公衆審査の移行が承認され、現在公衆審査中であることと、その後の編集上の修正の内容についての説明があった。本内容の資料を専門部会に報告していくことが承認された。

以下のような議論があった。

- ・ 作業会としての誤記チェックと、事務局の誤記チェックで資料を分けた方が良いか
- ・ 数が多くても JIS に従った編集上の修正ということであれば、一つ一つではなくその旨を説明すれば良い。
- ・ 専門部会や標準委員会に出すのであれば、先にタスクにも出してほしい。ここで判断がされるため。ただし、幹事会が既に終了しているため、タスクに資料が追加されることを連絡する。

(5)地震 PRA:202x の改定、検討スケジュール・ JCNRM からのコメントについて

成宮常時参加者(地震 PRA 作業会幹事)より、地震 PRA 標準:202x の改定の間報告に対するリスク専門部会等からのコメント状況、地震 PRA2015 英語版に対する JCNRM からのコメント状況、これらに対する今後の改定作業の進め方について説明が行われた。意見を募ることとした。 1:22

以下のような議論があった。

- ・ 停止時 PRA 改定の際に地震の内容を組み込むという議論があったがどうなるか。
→ これについては組み込む方向で進めるものとしている。ただ地震ではハザード、フラジリティ、システム評価と別れているもの、レベル 2PRA ではこの箇条からあとは地震と分離しているもの、一方で燃料では各箇条に分散しているものなどがある。組み込む際にはこれらの整理も派生課題として必要かと考える。

- ・ JCNRM へのオフィシャルなレスポンスと、委員会内部での議論は別途詳細にまとめたほうが良いと思われる。他の標準も含めて技術的な議論が拡大するための起爆剤となると考えられるため。
- ・ JCNRM への回答は礼節を保つ上でも、真摯に回答はするものとした。一方で JCNRM の場でも反論も含めて議論は可能である。用語でコメントもらっているが、要求事項としての標準の形式としてコメントを貰ったのは初めてなので丁寧に対応したい。
- ・ 例として、米国からチャタリングのコメントなどもあるが、日本の実情をきちんと説明した回答を行いたいと考えている。
- ・ 今回、附属書（参考）は英訳をしていなかったが、要求内容の理解には必要なものがいくつかあった。これが理解の課題になった点もあったと思う。
- ・ ロードマップの英訳チームで 2022/1,2 月に段階で JCNRM へプレゼンとなっているが、標準への取り込みについてもここが初めてのお披露目になるのか？
→ それ以前の JCNRM ところでも回答を出していくが、出す場合にはリスク専門部会の承認がいるため、ある程度固まった形で作る必要がある。2022/1,2 月は最終段階の内容の想定。ただし、この標準は日本の標準であるので、ここは JCNRM の承認をするわけではない。

階層化の記載の仕方についても地震と L1PRA の違いについての状況も話された。

- ・ JCNRM コメントでも標準はスコープとインプットとアウトプットを明確にするというものがあつた。これが What to do ではないか。
- ・ かつて L1PSA 標準を最初に議論開始した際もそのような話をしてきた。規格を作る側としては当たり前のことではあるが、精緻に議論し直すことで改めて確認するようにしたい。
- ・ 規格作成の際に、情報収集と文書化は後回しにされがちなので各箇条で責任を持って統一した書式で作成し、集約すること利点を確認して整理することが重要。

(6) 次会日程 その他

- ・ 津波と外部ハザードの選定基準の定例改定について
 - 津波は改定版発行が 2019 年であり、NRRC 等のパイロットプラントの成果が公表された結果を受けて具体的な提要評価事例の集約を作成する予定。
 - 外部ハザードの選定基準は追記する方向で考えるが、技術レポートかもしれない。本分科会の所掌になるということで今後の対応を検討することとした。
- ・ 次回分科会は 2021/2/2 の 10:00～ Webex 開催で調整する。

以上